

総合こども園

「れ会」の準備をしていた。ゲームの内容や手作りのプレゼントは自分たちで考えた。

昨年4月に誕生した同園は、私立幼稚園と町立保育所を統合し、社会福祉法人が運営する。年長組の担任で保育士の川崎友美さん(31)は、「保育所だった頃に比べ、子どもの創意工夫を生かす活動が増えた」と話す。

認定こども園は2006年に制度化され、昨年4月現在、全国に762か所。所管が文部科学省と厚生労働省にまたがり、補助金の仕組みなどが複雑なこともあって普及が進まなかった。新システムで創設される総合こども園は、幼児教育を行い、長時間の保育



幼稚園出身の子どもは体育着、保育所から来た子どもはスモック姿で一緒に遊ぶ(山形県金山町の認定こども園「めぐたま」で)

くらし 家庭

「幸福感」考える本 京大教授ら

物質的な充足より、心の豊かさに着目した「幸福感」への関心が高まるなか、京都大の研究者ら31人による論考やコラムをまとめた「幸福感を紡ぐ人間関係と教育」(ナカニシヤ出版) Ⅱ写真Ⅱが発行された。

2部構成で、私たちはどのように幸福感を見いだしていけばいいのかを多角的な視点で探っている。第1部の序章では、京都大などが2009～11年に実施した、日本を含む世界13か国、計約8000人への調査結果を紹介。「私は世の中に貢献している」「私は人生に満足している」など、有能感や達成感を示す92項目の質問をしたところ、日本と韓国の得点が、特に低い



ことが分かった。

他の章では、東日本大震災後に国内で盛んに用いられた「がんばろう」という言葉がもたらす影響や、ヒトと動物の幸せのために動物園ができることについての考察、気晴らしの効果的な活用方法などを紹介。「寄付と幸福感」「おとなにならないこと」「は幸せか?」など、興味深いコラムも掲載した。

第2部は、「国民総幸福(GNH)」という指標を掲げるブータンをテーマにした座談会を詳報。昨年の

国王夫妻来日で注目を集める以前から、何度も同国を訪れてきた研究者ら10人が、国民の暮らしや文化、宗教、政策について意見を交わし、今後の日本のあるべき姿を探っている。

編者で京都大教授の子安増生さんは「東日本大震災を経験した今、幸福とは何かを考えることの大切さは更に高まっている。関心のある部分を読むだけでも、何らかの道しるべになるのでは」と話している。四六判。244頁。2200円(税別)。

ツイッター川柳ハマった私

きて一石二鳥なのだが、一つ問題があることに気づいた。カタカナの行書は非常に難しいということだ。

書道をやっていく以上、「これも勉強」と、苦戦しながら取り組んでいるが、改めて見直すと、私の川柳には、カタカナがあふれて

いる。それだけカタカナ語が日常化していると

「デザートは ロールケーキがマイブーム」

小林 道子(大阪府豊中市、主婦、61歳)

簡易投稿サイト「ツイッター」で、川柳日記を始めて1年が過ぎた。何をやっても三日坊主の私がほぼ毎日、日々の出来事を川柳でつぶつているとは、自分でも驚きだ。たぶん、誰かが読むかもしれないということが、大きな力となっているのだと思う。

年明けからは、川柳を筆書きしたものを撮影して載せている。少し遠ざかっていた書道の練習もで



2012. 2. 7

大変よく頑張りがりまあなたから人生を

30年女性。20は、3人でいまの、落ち込ませてくりに教は父がした。

一に考大切に仕事を父の10年間い生活切にで

定している内のお多5歳児はや休み時活動を増生活に移型の活動「保育」